

主催者（八千代市）代表挨拶

八千代市長 豊田 俊郎



どうも皆さんこんにちは。ご紹介頂きました地元市長の豊田と申します。本日は第3回目の里山シンポジウムを本市で開催するにあたり、主催団体の一員としてご挨拶申し上げたいと思います。本日は県下各市町村より関係団体の皆様にご参加いただき、また実行委員の皆様には、開催にあたりご尽力頂きましたことを改めて感謝を申し上げたいと思います。

ただ今、実行委員会代表の方からご挨拶と、近々に起こった事件についてお話いただいたところですが、当市も里山といわれている所は大変多くございます。実は私の育った所は、八千代市の一番北部の、八千代市民の方でもあまり知らない方が多い、イモノクボという地名のところなのです。どういう漢字を書くのかと皆さんお思いになると思うのですが、実は神様の神に久しいに保つ（神久保）で、イモノクボと読むのですが、誰が読んでもカミクボとしか読めないのです。

農家の件数は10件ほどで、この10件で地域を形成しています。まさしくこの谷津田を挟み、北側の方、背中に山を背負って目の前に水田が広がる環境です。家が10件しかないのも、私が子どもの頃は水も大変きれいで、川というより溝でシジミを採ったり、鮎やザリガニを採って遊んでいたのですが、いつの間にかシジミもいなくなり、鮎などの魚たちも今では影をひそめてしまいました。八千代市では、「ほたるの里」づくりとして蛍フォーラムを中心に、皆さんが「なんとか蛍を呼び戻そう」と活動がおこなわれています。私が子どもの頃は、まさか蛍がこの土地からいなくなるとは想像すらできなかったのですが、今ではほとんど見かけなくなりました。実は、地域の家の数はほとんど増えてなく、その周りの環境が大きく変化してきているのです。

しかし、なかなかこの変化に気づけなかったのです。順序だてて考えればやはりおかしいのではないかと気がつくのですが、これまで日々の生活に追われていて、そういうことを見つめなおす機会が大変少なかったのです。政治家になり、様々な機会で様々な方々のご意見を伺い現状を知るにつれ、時すでに遅しという感じもしますけれども、やはり環境を戻せるものなら戻したいという念に駆られているところでございます。

今日は特に、基調講演の中で、遠方徳島県上勝町より星場真人様にお越しいただき、里山の環境を生かして産業を振興させ、さらにお年寄りの暮らしや健康までも改善された取り組みをご紹介頂ける、ということでございます。大変有意義なお話も聞けるとお思います。ご期待致したいとお思います。最後になりますけれども、このシンポジウムは全国的にも注目を浴びていると伺っております。今回は、当市において開催されるということで、この機会を通じて、皆さんにとってまた私たちにとっても大きな成果ができることを心よりご期待申し上げまして、ご挨拶に代えさせて頂きたいとお思います。

本日は誠にご苦労様でございます。